



巻頭言：県立図書館の利用方法

福島県立図書館長 杉浦 孝幸



福島市森合に県立図書館が移設されてから 35 年が経ちました。この間、私はこどものへやで我が子を遊ばせたり、軽読書コーナーで雑誌をめくったり、気になる本を借りたりと一般のユーザーとして利用してきました。

今年度から図書館勤務となり、様々な利用方法があることを知り、この機会に紹介させていただきます。当館は立地上、県北地方の方の来館が多いわけですが、遠隔地の方へも配慮しております。まずは、ホームページにおける蔵書検索です。当館にない図書も他の図書館から借りて利用することも可能です。他館へ貸し出すことと併せて相互貸借サービスと呼びます。当館の図書をお近くの図書館で借りるサービスも平成 29 年度から開始しました。受取館指定サービスです。お急ぎでしたら、送料は自己負担となりますが、御自宅に配送できる資料宅配サービスをお申し出ください。また、読み終えた図書を県内 38 市町村の図書館・公民館図書室に持参いただきますと事前の手続きなしで返却することもできます。遠隔地返却という制度です。

平成はインターネットが発達した時代でした。手軽に検索できる環境が整備されましたが、ネットで探せないものや信憑性が乏しい情報も多々あります。そんな時に、当館で調べものをしていただきたいのです。御自分で探しやすいように、問い合わせが多いテーマ毎に約 180 項目のパスファインダー（調べ方の手引き）を準備しております。本の森への道しるべと名付けておりますので、是非御活用ください。専門知識を有する司書がお手伝いするレファレンス（調査・相談）サービスにも力を入れております。116 万冊に及ぶ蔵書の中から、きっと役立つ資料が見つかるはずですよ。

公立図書館の役目として、地域資料も積極的に収集し、約 22 万冊を揃えることができました。特に東日本大震災関連の資料については、東日本大震災復興ライブラリーとして特設のコーナーで閲覧に供しております。震災直後から、地震や原子力問題にとどまらず、小説、子ども向けなど 16 テーマで 18,000 冊余りの資料を集めました。特筆すべきは、新聞です。地元紙の福島民報、福島民友とも明治期の創刊直後から現在まで揃っております。おじいちゃんのお希のお祝いにと誕生日の新聞をコピーしていく方もいらっしゃいます。

館内は、バリアフリーですし、昨年 5 月にはサピエ（視覚障がい者情報提供）図書館として登録を済ませたほか、大きい文字で読みやすい大活字本も計画的に購入し、1,223 冊を数えました。老眼鏡や拡大読書器も備えてあります。また、子ども向けには靴を脱いで楽しめるえほんコーナーを設置するとともに、親と子の休憩室では授乳などができ、中高校生向けにはヤングアダルトコーナーを設けております。

静かで落ち着いた空間を無料で過ごせる図書館へどうぞ足を運んでください。

県内新設図書館及び再開図書館の動向（2018年～2019年）

＜東日本大震災からの再開＞

2011年3月の東日本大震災は、県内に甚大な被害をもたらしました。本県では、地震・津波に加え、原子力発電所事故災害により、全町避難を余儀なくされた自治体もあることから、8年が経過しようとしている現状にあっても、未だ休館を続ける図書館もあります。

こうした中、避難指示地区内にあった図書館の活動にも動きが見えてきました。2017年度に帰還を果たした富岡町は、2018年4月1日、震災以前と同じ、文化交流センター「学びの森」で図書館活動を再開しました。原子力発電所事故災害に伴う全町避難の自治体としては初めてのこととなります。再開に当たり、正規職員（司書）1名を採用するとともに、業務の一部を外部委託としました。

また、同じく地元再開をした小・中学校に対して資料支援を開始するなど、子どもの読書・学習環境の充実に積極的に取り組んでいます。



《オープニングセレモニーの様様》

図書館再開に向けた作業は、外部委託により前年6月に着手をしています。この間、曝書と廃棄資料の選別、購入資料の選定と受入等を実施、さらには燻蒸作業を行うことで資料の適正化を図っています。復旧作業の工程と内容、そこから見てきた課題等、蓄積された情報は貴重な記録と言えます。これらは、『富岡町図書館～再開館までの道のり～』としてまとめられ

ています。

富岡町同様、一部地域の避難指示が解除され、2017年度に帰還を開始した浪江町でも、図書館の再開に向けた検討が進められています。

従来図書館のあった建物に隣接する施設を改修し、「復興まちづくり支援施設」として整備する予定であり、その施設内に図書館機能を持たせることとしています。現在、同施設の設計に係る業務を進めているほか、既存資料（休館前蔵書）の点検を実施しています。

福島市笹谷地区に設置されている、仮設図書館「ライブラリーきぼう」については、施設周辺の避難（居住）状況や利用頻度、町内での図書サービスの再開スケジュールを踏まえた検討が実施されています。

この他、避難指示区域には、双葉町図書館と大熊町図書館がありますが、双方とも帰還困難区域内にあることから立ち入りが困難であり、帰還の時期に合わせ再開を検討していくとのことです。

＜図書館新設の動き〔新設館〕＞

2018年4月1日、浅川町立あさかわ図書館が開館しました。既存の病院施設を活用した単独の図書館で、多世代交流拠点施設としての機能を持ち合わせています。



《浅川町立あさかわ図書館》

このことにより、本県の図書館設置自治体数は31となり、図書館の設置率は52.5%となりました。

本との出会いの場となり、学びの場となり、憩いの場となり、交流の場となるよう、「親子わくレク教室」「多世代交流教室」「よみきかせ会」「ファーストブック事業」などの教室を開催し、幼児から高齢者まで、幅広い町民交流の「場」として活動を行っています。

<図書館新設の動き【新設準備館】>

会津美里町では、2019年5月7日の図書館開館に向け準備を進めています。

新役場庁舎と複合文化施設からなる「じげんプラザ」の1階に入ることになっており、図書館設置による読書・学習環境の充実だけではなく、自己発見と町づくりの拠点として、また、歴史と文化を後世につなぐことを大きなコンセプトとしています。

町全体としては「図書館情報システムネットワーク」が構築されます。システムは2つのネットワークから構成され、会津美里町図書館と生涯学習センター2館を結ぶ「図書館システムネットワーク」では、3館どこでも図書の貸出と返却が可能となります。また、「学校図書システムネットワーク」により、小学校4校と中学校3校が結ばれることとなります。学校全体の蔵書を管理するとともに、学校教育における公共図書館の活用が見込まれています。



《図書館の入る「じげんプラザ」》

石川町でも、2019年4月に図書館が開館します。建物は旧石川小学校を活用したもので、石川町立図書館のほか、生涯学習機能や子育て支援機能等を併設する文教福祉複合施設となります。

図書館は、複合施設としての機能を効果的に活用し、放課後児童クラブ等、他の機能との連携による事業実施にも積極的に取り組むこととしており、町民に親しまれる「居場所」としての役割を目指しています。また同町は、「日本三大ペグマタイト鉱物産地」にも数えられ、豊富な鉱物資源で知られていることから、この特徴を活かした関連資料の収集と活用にも期待が持たれます。

<図書館新設の動き【新築移転】>

郡山市中央図書館では、2018年5月14日、熱海分館をJR磐梯熱海駅前の複合施設（ほっとあたま）内に移設しました。専任職員を配置するとともに、電算化による資料管理を行うことで、中央館とその分館8館、地域図書館3館とのネットワークが結ばれました。

熱海分館が増えたことにより、県内の公立図書館数は、分館・地域館・地区館を含め62館となりました。

新図書館建設のため、2018年7月1日より休館していた須賀川市図書館は、2019年1月11日、須賀川市民交流センター（tette）内に再オープンしました。



《3階メインフロア カウンター周辺》

複合施設としての機能を活かした活動を重視し、資料も図書館だけではなく、子育て支援コーナーなどにも配置され、多くの市民が図書と出会える環境を作り出しています。

再オープンに当たり名称は「須賀川市中央図書館」となりました。

（文：企画管理部 専門司書 吉田和紀）

あさ かわ かん いち 「朝河貫一没後70年記念事業」実施報告

1 「朝河貫一」とは？

朝河貫一（1873-1948）は、本県出身の国際的歴史学者です。立子山尋常小学校（現・福島市立立子山小学校）、川俣高等小学校（現・川俣町立川俣中学校）福島県尋常中学校（現・福島県立安積高等学校）を経て東京専門学校（現・早稲田大学）を首席卒業し、22歳でアメリカ留学。ダートマス大学・イェール大学大学院を修了後、学者として数々の功績を挙げました。また、日米開戦を阻止するため「昭和天皇宛大統領親書草案」を執筆し、アメリカ政府へと働きかけた逸話は有名です。



朝河貫一

2 県立図書館と朝河の関係は？

妻・ミリアムを早くに亡くし、子もいなかった朝河は、1948（昭和23）年8月アメリカで独りその生涯を閉じます。彼の遺品は福島に住む親族たちへと相続され、1953（昭和28）年9月に東京日本橋の三越本店で開催された「朝河博士顕彰遺品展」等で公表されました。その後、親族や研究者の間で公的機関における資料の保存・保管が検討され、1981（昭和56）年に当館が受入先に決まり、1984（昭和59）年に「朝河貫一資料」としてお披露目されました。

3 朝河貫一没後70年記念事業

2018（平成30）年は朝河没後70年目にあたり、当館でも以下の記念事業を実施しました。

（1）当館ホームページ

「郷土の偉人・朝河貫一没後70年」の開設

朝河について紹介した特設ページを、当館ホームページ上に4月より開設しました。

（2）企画展「海を渡ったサムライ～朝河貫一没後70年記念展」の開催

【2018（平成30）年6月8日～9月5日】

「昭和天皇宛大統領親書草案」のほか親交のあった女性たちに関する展示等、様々な切り口で朝河を紹介しました。期間中は55,143名の来館があり、当館職員によるギャラリートーク（計3回）にも66名参加されました。



（3）記念講演「ふくしまから世界へ～国際人・朝河貫一の歩み～」の開催

【2018（平成30）年6月9日】

甚野尚志氏（早稲田大学文学学術院教授）を講師に記念講演を開催しました。朝河博士の生涯や比較法制史の研究に加え、「昭和天皇宛大統領親書草案」に代表される日米平和への尽力などの偉大な功績について、写真等を用いながら講演いただきました。

（4）『朝河貫一資料目録』改訂版の発行

【2019（平成31）年1月18日】

1992（平成4）年発行『朝河貫一資料目録』を改訂しました。甚野教授に協力いただき、書簡内容の解説や書簡を交わした人物の説明等が加わりました。甚野教授による刊行記念講演も開催されます。

本事業の詳細については『福島県郷土資料情報 No.59』をご覧ください。

（文：資料情報サービス部 地域資料チーム）

「福島県立図書館アクションプラン (第3次)」について

当館では、平成 17 年に『福島県立図書館「学びの環境づくり」』を策定し、図書館のあるべき姿を示しました。また、その実現のため、平成 20 年 3 月に『「県民を支える図書館」アクションプラン』を策定し、“学ぶ人”“働く人”“市町村図書館”等、利用対象者に主眼をおいた事業計画を定めるとともに、実施に努めました。

平成 25 年 3 月には、東日本大震災からの復興を第一の柱とした『福島県立図書館アクションプラン (第 2 次)』を策定しました。

平成 30 年 3 月策定の本プランは、これまでのプランで実施してきた事業と、培われた職員の行動意識を基盤に、改めて県立図書館としての役割に重きを置きました。

第 3 次アクションプランの大枠は以下のとおりです。

◆ **基本理念** 『「知の拠点」として、全ての県民の教育と文化の振興を図り、ふくしまの未来をひらきます。』

◆ 4つの目標

1 **県民のための図書館**……当館は、資料（情報）を収集し、保存し、提供することで、県民の皆さんに役立つ図書館を目指すとともに、全ての人が等しく利用できるサービス体制を目指します。

2 **子どもたちの今と未来のための図書館**……ふくしまの未来を担う、今とこれからの子どもたちのために、資料（情報）を収集し、保存し、伝え、子どもたちの読書活動や主体的・対話的で深い学びを支えることができる図書館を目指します。

3 **市町村（図書館・公民館等）を支えるための図書館**……県内市町村図書館等に対する協力・支援を充実させることにより、市町村の図書館活動を支えるとともに、ネットワーク体制を推進し、全県的な図書館活動の振興を目指します。

4 **ふくしまを知ることができる図書館**……「ふくしま」の情報を収集し、保存し、発信することで、全ての人が、いつでも、どこからでも、「ふくしま」を知ることができる「拠点」となることを目指します。

これらの目標を実現するために各種事業を実施してまいります。どうぞご期待ください。なお、『福島県立図書館アクションプラン (第 3 次)』は当館ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

(文：アクションプラン推進委員会事務局)

福島県地域資料御寄贈のお願い

福島県立図書館では、郷土の過去・現在を未来へ伝える資料として、福島県に関する地域(郷土)資料を収集・保存し、県内外の方にご利用いただいています。

地域(郷土)資料とは次のような資料です。

- ・福島県や県内各地域に関する資料(歴史、民俗、地誌など)
- ・福島県内企業・団体・行政機関等の発行した資料
- ・福島県内に在住する方、または福島県出身の方の著作
- ・福島県にゆかりのある方の伝記

※ 図書だけでなく、雑誌、地図、パンフレット、CD、DVDなども収集しています。

※ 東日本大震災に関する資料は特に重点的に収集しています。

上記のような資料を刊行された際は、当館へ**2部**(保存・貸出用)ご寄贈いただけるとたいへん嬉しく思います。また、地域(郷土)資料の蔵書を処分される際にも、ご一報ください。



図書の御寄贈 (H29.10~H31.1)

以下の団体をはじめ、多くの方々から図書の御寄贈をいただきありがとうございました。寄贈いただいた資料は、当館の活動を通じて広く県民の皆様の利用に供してまいります。

【県民のくらし応援文庫御寄贈】(敬称略)

- | | | |
|-------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| ■ 一般財団法人ふくしま未来研究会 | [445冊(1,000,000円相当)](29.10.6) | [565冊(1,000,000円相当)](30.10.30) |
| ■ 大槻電設工業株式会社 | [61冊(100,000円相当)](29.10.27) | [65冊(100,000円相当)](30.9.28) |
| ■ 福島テレビ株式会社 | [36冊(100,000円相当)](29.12.12) | |
| ■ 株式会社テレビユー福島 | [66冊(100,000円相当)](30.8.15) | |
| ■ 株式会社福島民報社 | [61冊(100,000円相当)](30.8.17) | |
| ■ 福島ヤクルト販売株式会社 | [32冊(50,000円相当)](30.10.31) | |
| ■ 福島民友新聞株式会社 | [65冊(100,000円相当)](31.1.9) | |

【通常御寄贈】(敬称略)

- | | | |
|-------------------|---|----------------------------------|
| ■ 一般財団法人福島県教職員互助会 | [1,160冊(2,160,000円相当)](29.11.30) | [1,091冊(2,160,000円相当)](30.11.30) |
| ■ 国際ゾンタ福島ゾンタクラブ | [60冊(100,000円相当)](30.2.2) | |
| ■ 国際ソプロチミスト福島 | [67冊(100,000円相当)](30.2.6) | |
| ■ 日産自動車株式会社 | [192冊(県立・市町村図書館、公民館分)](30.3.14) | |
| ■ NPO法人チームふくしま | [300冊(県立・市町村図書館、公民館分)](30.6.19)、(30.9.21) | |
| ■ 福島信夫ライオンズクラブ | [62冊(100,000円相当)](30.10.31) | |

『福島県立図書館報 あづま』 第68巻(通巻272号)

平成31年2月22日

発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島県福島市森合字西養山1番地 電話:024-535-3218(代表)

URL: <https://www.library.fks.ed.jp/>